今日は生成 AI と AI エージェントの違いにつ いて専門的な理解を深めたいと思います。週一配信を 10 年以上継続している私のメルマガ アモリ通信のテーマにします。　私は生成 AI に関しては、70 過ぎの爺さんにし ては、かなり使いこなしている人物であろうと自画自賛！しています(^^♪　しかし、AI の進化のスピードは速く、生成 AI を使いこなす程度で自慢しているようでは 「何やってんだ爺さん」を自覚した方がいいかも 知れないと思うようになりました。 「生成 AI と AI エージェントの違いについて　分かり易く教えてください」 このテーマを幾つかの生成 AI に質問して、 一番分かり易くて内容も優れていると私自信 が判断したものを、アモリ通信の原稿にします。 宜しくお願い致します。

ご依頼のテーマで、そのまま使える「アモリ通信」原稿案をまとめました。核心は、**生成 AI が「頼まれたら答える・作る」存在**であるのに対し、**AI エージェントは「目標を与えると、調べて考え、手順を決め、ツールを使って実行する」存在**だという点です。

生成 AI と AI エージェントの違い

「答える AI」から「働く AI」へ

私は、生成 AI に関しては、70 過ぎの爺さんにしてはかなり使いこなしている方だと自画自賛してきました。文章の下書き、要約、翻訳、調べもの、アイデア出し――確かに、生成 AI は私の毎日の仕事を大きく支えてくれています。

しかし、AI の進化は速い。生成 AI を使いこなすだけで満足していたのでは、「何やってんだ爺さん」と言われても仕方ない、と思うようになりました。今、注目されているのは、生成 AI の先にある「AI エージェント」です。

生成 AI とは何か

生成 AI は、人間が質問や指示を出すと、文章・画像・音声・プログラムなどを生成して返す AI です。いわば、非常に優秀な「相談相手」であり、「文章を書く相棒」です。

たとえば、「この原稿を分かりやすく直して」「この本の要点を要約して」「旅行の計画案を作って」と頼めば、それに応じた答えを作ってくれます。ただし、基本は**呼ばれたときに答える**という受け身の働き方です。

生成 AI の得意分野は、次のようなものです。

- 文章やメールの作成・推敲
- 長い資料の要約
- 翻訳や言い換え
- アイデア出し、企画の壁打ち
- プログラムの作成や修正
- 画像・音声などの生成

つまり生成 AI は、人間が一つずつ指示を出し、その都度成果物を受け取る使い方に向い

ています。

AI エージェントとは何か

一方の AI エージェントは、目標を与えられると、状況を把握し、計画を立て、必要なツールを使い、実際に作業を進める AI です。

たとえば、「来月の海外旅行の計画を立て、予算内で航空券とホテルの候補を比較し、日程表まで作ってほしい」と頼んだとします。生成 AI なら、一般的な旅行プランの案を作ることはできます。しかし、AI エージェントなら、次のような動きが期待できます。

- 旅行日程や予算の条件を確認する
- 航空券やホテルの情報を調べる
- 候補を比較し、条件に合う案を絞り込む
- カレンダーやメモ、予約システムなどのツールを使う
- 結果を整理し、必要なら次の行動まで進める

重要なのは、AI エージェントが「観察、思考、判断、実行」を繰り返す点です。途中で状況が変われば、計画を修正しながら目標に近づこうとします。

一言でいうと

生成 AI は「頼まれたことを、うまく作る AI」です。

AI エージェントは「頼まれた目標に向かって、仕事を進める AI」です。

もう少し噛み砕けば、こうなります。

項目	生成 AI	AI エージェント
基本の働き	指示に応じて文章や画像などを作る	目標を達成するために計画し、行動する
主役	「答え・成果物」を作る	「一連の作業」を進める
人間の役割	指示を出し、結果を評価する	目標とルールを決め、結果を確認する
得意なこと	執筆、要約、翻訳、発想、画像生成	調査、比較、整理、実行、進捗管理
たとえ	すぐれた相談相手	実際に動き回る有能な助手
注意点	もっともらしい間違いが出ることもある	権限や実行範囲をよく設計する必要がある

生成 AI が「質問に答えてくれる相談相手」なら、AI エージェントは「実際に仕事を進めてくれる助手」と表現できます。

生成 AI は不要になるのか

いいえ。むしろ、生成 AI は AI エージェントの中核部品になります。

AI エージェントは、文章を理解し、計画を立て、言葉で考えをまとめるために、生成 AI

の力を使います。そのうえで、検索、カレンダー、メール、表計算、データベース、予約システムといった外部のツールを操作し、現実の作業につなげます。
つまり、両者の関係は「対立」ではなく「進化」です。

- 生成 AI：考える・書く・作る
- AI エージェント：考え、書き、調べ、操作し、実行する

生成 AI は「頭脳」、AI エージェントは「頭脳に手足と行動力を与えた存在」と考えると分かりやすいでしょう。

身近な例で考える

たとえば、毎週のメルマガ執筆を例にしてみます。
生成 AI には、「今週は生成 AI と AI エージェントの違いについて、分かりやすく原稿を書いてほしい」と頼めます。すると、原稿の草案を作ってくれます。ここまでは生成 AI の仕事です。
AI エージェントには、もう少し大きな目標を渡せます。
「今週のメルマガのテーマを決め、関係資料を調べ、原稿案を作り、誤字や表現をチェックし、配信用の下書きまで整えてほしい」
AI エージェントは、この目標を分解し、必要な情報を集め、原稿を作り、確認すべき点を整理します。人間は最終判断と責任を持ちますが、作業の流れそのものを AI に任せられる可能性が広がります。

だから、何が変わるのか

生成 AI の時代は、「うまく質問できる人」が有利でした。
AI エージェントの時代は、「何を達成したいのかを明確に伝え、どこまで任せ、どこで確認するかを設計できる人」が有利になります。
これは、AI に丸投げするということではありません。むしろ、人間にしかできない仕事がはっきりしてきます。

- 何を目指すのかを決める
- 何をしてはいけないかを定める
- どの情報を信じ、どの判断を人間が下すのかを決める
- 結果の質と責任を最終的に確認する

AI エージェントは、目標を設定すれば、それを達成するための行動を自ら選びます。 だからこそ、便利さと同時に、「勝手にどこまでやってよいのか」という権限の設計が大切になります。

爺さんの覚書

私はまだ、生成 AI を「使いこなしている」段階かもしれません。しかし、これからは生成 AI を道具として使い、AI エージェントを「仕事を任せる相手」として扱えるようになることが求められそうです。
ただし、最後の判断は人間です。AI が作った文章をそのまま信じず、AI が進めた作業をそ

のまま受け入れず、**目的・事実・責任の三つを人間が握る**こと。それが、これからの AI 活用の基本だと私は思います。
生成 AI は「考える力」を貸してくれる。
AI エージェントは「動く力」まで貸してくれる。
けれど、**何のために動くのかを決める力**は、まだ人間の仕事です。

ご希望なら、この原稿をさらに「アモリ通信らしい、少しユーモアのある語り口」に整えたり、800 字・1,200 字・1,600 字の三つの長さに調整したりもできます。